

園庭の桜の木の葉っぱが赤や黄のカラフルな色に変わり始め、秋から冬への季節の移りを教えているようです。

10月は運動会の余韻を十分に楽しみ、さつまいも掘りや園外保育などで秋の自然に親しみました。また、ハロウィンごっこでは一人一人がイメージしたおぼけやキャラクターに変身して商店街やいろは横丁、市民センター、児童館などにおどかしに行き、地域の方々との交流を楽しんできました。

さて、11月は秋の深まりと同様に学年を超えた友達とのかかわりもぐんと深まる時期です。子どもたちが秋空の下で体を大いに動かし、遊びが広がるよう今後も保育に努めていきたいと思います。

そして、これからは風邪を引きやすい時期になってきます。体温を上げて免疫をつけるためにも朝ご飯をしっかり食べ、なるべく薄着で過ごせるように心がけていきましょう。



預かり保育について

※冬季休業日の預かり保育については、夏季休業日と同様の利用方法です。月契約を希望する方は、11月15日(金)までに担当：石森までお知らせください。

※1月24日(金)は新入園児保護者説明会のため、月契約のみの利用とさせていただきます。

※10月から幼児教育・保育の無償化が始まりました。預かり保育利用料も無償化の対象となります。これまでの仙台市からの情報とスケジュールをお知らせします。

- ①保育の必要性の認定(2号認定)の手続きを受理された方が対象。
- ②利用料については、これまで通りに保護者が一旦利用料を園に支払った後、上限額の範囲内で仙台市から保護者へ利用料を返還。上限額は1日あたり450円、1ヵ月あたり11,300円。
- ③利用料の精算は、原則6ヵ月ごとに行う。園から発行される「領収証兼提供証明書」をもとに、保護者が園を通じて仙台市に利用料の請求をする。
- ④書類審査後、仙台市から保護者へ利用料が支払われる。

優勝めざして!! ~宮私幼PTAバレーボール大会~

今年も6日(水)に行われる「宮私幼PTA親善バレーボール大会」に出場します。練習の成果を発揮して、1回戦突破を目指して頑張りますので、お時間の都合のつく方は是非応援にいらしてください!

- にじ組 鈴木 和江(正樹) 近江 由佳子(望乃佳)
矢島 早紀(凛・怜) 藤浦 百梨花(歩・希)
- はと組 千葉 結香(あかり) 新沼 圭(弘一朗)
木皿 有希子(裕隆) 瀬尾 美絵(優斗)
- たんぼ組 中田 愛(結心) 鳥海 陽香(颯) 徳永 理絵(颯斗)
- ちゅうりっぷ組 鈴木 智咲(敬) 額田 恵(凧)
- ※瀬尾 俊一さん(はと組 優斗父)には監督としてご指導をいただいております。



はと組和川匠くんのおうちからハロウィンで使う手作りの「ジャック・オー・ランタン」をいただきました♪



東二小ビル 総合避難訓練

〈日時〉8日(金) 9:45~10:20
〈内容〉幼稚園・小学校・市民センター・児童館の合同避難訓練です。水消火訓練と濃煙体験を行う予定です。濃煙体験にあたり、喘息やアレルギー等でご心配な方は担任までお知らせください。

職場体験学習

仙台市立五橋中学校の2年生8名が幼稚園の「職員」として職場体験をします。担任の先生の補助として活動します。
〈期間〉12日(火)~14日(木)

観察実習

仙台幼児保育専門学校1年生4名
〈期間〉11日(月)~15日(金)

火災想定避難訓練

〈日時〉12日(火)
10:00~10:20
〈ねらい〉災害が発生した場合の放送や口頭による通報・指示を正しく聞き取り、落ち着いて安全に避難できるようにします。



※寒くなり、上着を着用する機会が増えてきました。ジャンパーやコートを園児ロッカーのフックにかけやすいように、襟の後ろにループやひもをつけてください。子どもが自分でかけられるよう輪の大きさなど、工夫してください。

※登園時間を守っていただき、ありがとうございます。車での送迎の際、路上駐車をしている方が多く見られるようになってきました。いろいろな事情があるかと思いますが、園児の安全面を考えると、あまり好ましいとはいえません。また、その際に横断歩道を渡らずに道路を横切って送迎門に向かう方もいらっしゃいますが、こちらは大変危険です。大人がしっかりとマナーを守り、小さな命を守りましょう。

園長のひとりごと ~「・・・はどう？」から始まる会話~

一番下の6年生の孫は、来仙した時には私の手料理を好んで食べてくれます。料理を作った側からすれば、「おいしい」と言ってほしい。だからついその答えを引き出すために「おいしい？」と聞いてしまいます。完全な自己満足です。最近はレパートリーも増え、「どう？」と聞くことにしています。そうすると、おいしかったものやおいしくなかったものの理由についても話してくれます。「脂がのってこの魚はおいしい」とか「歯触りが好きでない」とか。「じゅあ、どう料理したらおいしくなると思う？」と会話が続きます。食事以外の場面でも「OOはどうだった？」と聞く方が、子どもは自分なりにいろんな表現をするのではないのでしょうか。親子のコミュニケーションは、親にとって聞き心地のいいことを受け取って、子どもにとって聞き心地のいいことを言うだけではないはず。「どう思う？」に対する答えの出し合い・混ぜ合いで深まっていくのではないのでしょうか。